帆船日本丸男声合唱団・Newsletter No.25　　1998.06.20 作成・発行

1．ゴールデン・ヴァニティ

いよいよMMホールでのクロコディロスコンサート当日となりました。今回の公演に向けては、いつも以上に熱の入った練習を行ってきたわけですが、それにつけても、日本語でない歌は、どうにも意味が十分に取れない、という難しさがあります。暗譜するにも、心を込めるにも、そのへんが不十分だと困るのです。

さてこの「Golden Vanity号」ですが、きっと帆船でしょう。そしてスペインと戦った英国海軍のスターシップだとは思うのですが、いつの時代かが、そしてどんな背景なのかがよくはわかりません。そこで、勝手ながら想像で、物語を作ってみました。

時は18世紀の末、イングランド生まれのネルソンはアメリカ独立戦争の際に西インド諸島海域で奮戦し名が知られるようになったが、革命フランスとの間に戦端が開かれるや、ゴールデン・ヴァニティ号（以降ＧＶ号）を率いて第一線に復帰した。以後、ナポレオン戦争で嚇々たる戦歴を記録した。そこで敵国であるフランス、スペインの船乗りたちは何とかしてＧＶ号を撃沈しようと躍起になるのだが、誰も成功しない。そして1797年、スペイン艦隊をセント・ビンセント岬沖で迎え討つことになった。そのときもＧＶ号はスペイン艦隊に集中的に狙われたのだが、逆にＧＶ号の若い船乗りが敵の船に単身乗り込み、船腹に穴を開け、撃沈した・・・・・という話でいかがでしょうか。

ゴールデン・ヴァニティ

昔、七つの海を航海する船あり、その名はゴールデン・ヴァニティ。
この船、航海中に敵国スペインに乗っ取られることを恐れた。
そこで、一人の若い水兵が大胆にも船長に申し出た。
私がスペイン艦船に泳いで行き、沈めたら、何をいただけますか？
おお、それができるなら、銀をやろう、金もやろう、
そして、愛しの娘をお前の花嫁にしてやろう。
水兵は、甲板から海に飛び込み、スペイン船まで泳いでゆき、
操桁索で船腹に穴を開けた。その数３個。
そして、彼は船を沈めた。深い深い海の底へ・・・・。

なお、ネルソン提督（1758-1805）は、このセント・ビンセント沖海戦でスペイン艦隊を、ナイル河口アブキール湾の海戦（1798）でフランス艦隊を撃破し、そして1805年のトラファルガーの海戦でフランス、スペインの連合艦隊を撃破し、ナポレオンのイギリス本土侵攻の野望を打ち砕いたことで有名である。提督はみずからも被弾し、「神に謝す。われはわが義務を果たせり。」の語を残して戦死した。ロンドン中心部のトラファルガー広場は、この国民的英雄と海戦勝利を記念して設けられたものである。

[編集後記]　ドイツ語は当然に難しいけど、英語も難しいですね。辞書を引くと「vanity」とは自惚れ、虚栄心、虚栄、栄華などの意味があり、立派な船の名前にしてはしっくりこない。また「lowland」も一般には「低地」だけど、この場合は「海」としないと話が通じないし。てなわけで、いろいろとご指摘下さい。　また、ニューズレターの記事、あるいは関係情報もお寄せ下さい。（Ｂ１：山路永司）

帆船日本丸男声合唱団・Newsletter No.30　　1998.11.03 作成・発行

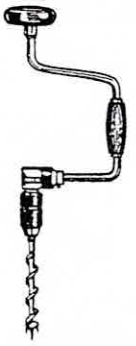
1．団員募集が各紙に

中野さんが各新聞に団員募集原稿を送ってくれました（文案は作山さん作成）。各新聞は、いつ載せてくれるか約束してくれませんし、「今度載るよ」といった連絡をしてくれるわけではありません。ですから、うかうかしていると載ったかどうかわからないのですが、五月雨的に掲載されているようです。7月22日の神奈川新聞「情報スクランブル」、8月20日の朝日新聞「かながわマリオン」、そして忘れた頃の10月10日付けの広報よこはま「浜っ子ひろば」に掲載を確認しました。あと読売新聞にも原稿を送ったそうですが、見落としたのか出てないのか・・・。

2．ゴールデン・ヴァニティ異論

8月30日の夜の番組で、タイタニックにまつわるドラマ、新事実が特集されていましたが、タイタニックが氷山に激突して出来た傷は、従来言われていたよりも遥かに小さいことが明らかになったとか。それで思い出したのですが、スペインの敵を沈没させた穴も非常に小さかったようです。ですから、ゴールデン・ヴァニティの歌詞もまんざらほら吹きでもないのかも知れません。

ただ最後のフレーズですが、ニューズレター25号に書いた「操桁索で船腹に穴を開けた。」という部分は、「手廻しドリルで」と直す方が適切でしょう。右の絵も含め、石橋氏にご教示いただきました。



Brace and bit

また、ヴァニティの意味が今一つ、とも書きました。主たる意味の自惚れ、虚栄心、虚栄、栄華などでは、立派な船の名前にふさわしくありません。vanity case で化粧箱の意味もあるし（石橋氏のご指摘）、この前雑貨屋ビルをうろうろしていたら、「バニティ」と書いたコーナーがあって、そこには女の子たちの持ってる可愛い小箱が並んでいました。もう日本語になってるのかな？

てな次第で「宝石箱のように光り輝く船」と理解すれば、話も通じそうです。

3．もっとパート練習を！　・・・7月14日キリンビヤホールでの口角泡飛ばしての議論から

7月25日までは息を抜く暇もない状況です。ただ、唄いながら周囲の音を観察していますと、あやしい／自信のない音が聞こえることがたまにあります。そこで提案なんですが、パート練習をもっともっと取り入れたらいかがでしょう。既成の曲はおさらいのパート練習、新曲はまずパート練習から、という具合で。パートリーダーに負担がかかるけど、リーダーにはメンバーの力量を把握してもらうことも必要でしょう。普段の練習日にはやりにくい面がありますから、合宿でみっちりとやるのはどうですか。

［編集後記］　やっと30号です。夏頃からペースダウンしてしまいました。この号の原稿は夏休み前にいただいていたのですが、やっと記事にすることができました。私事に忙しくなり、この先も時間が取れそうもありません。しばらく編集長を休ませていただきます。申し訳ありません。

各紙への掲載が順調なせいもあって、新入団員続々とうかがいました。名簿も改訂版を出したいのですが、ちょっと時間が取れません。どなたかお願いします。　（Ｂ１：山路永司）